

平成29年度 学校評価結果報告書

1 目指す学校像 明るく元気、地域の誇り桶川中学校

2 評価結果

評価基準 A：ほぼ達成した（8割以上の達成状況） B：概ね達成した（6割以上8割未満の達成状況）
C：あまり達成していない（3割以上6割未満の達成状況） D：ほとんど達成していない（3割未満の達成状況）

領域	No.	評価項目	自己評価		学校関係者評価
			評価	説明及び学校の考え（・具体策）	
組織・運営	1	校務分掌の各主任を中心に、分掌内で課題を共有し、前年度の反省を生かした計画を立てて実践する。	B	<p>○前年度の反省が生かされ、分掌で内容の共通理解を図り、主任を中心として行動できていた。改善を図って滞りなく行うことができた。</p> <p>○今年度の反省を生かすために、「本年度の反省」や「次年度への申し送り事項」を、校務パソコンの行事のフォルダ内に保存し、より充実した行事を計画的に実践する。年度ごとに引き継ぐことが伝わるようにマニュアルを作る。いつ、誰が、何をどのようにしていくか分かるようにしておく。</p>	<p>◎教員の時間外勤務時間については、土日の部活動指導も入っているのが一概に言えないが、負担軽減の面からも引き続き削減に取り組んでください。</p> <p>◎自己評価の結果から、「報告・連絡・相談」がよくできていることが感じられる。さらに充実されるよう、今後も取り組んでください。</p> <p>◎「気づいた人が確認・行動」できていることは、組織として大切なことです。これができていることは大変良いと思います。</p> <p>◎PTA活動で思うことは、新しいことをやるには古いことを省いていくことが必要。教員の働き方についても、そういったことを意識して取り組んでもらいたい。</p>
	2	学年や分掌ごとの主任がリードし、担当ごとに連携をとり、組織的に校務を進めた。	B	<p>○各学年や分掌ごとに主任が軸となり、教師間の報告、連絡、相談、調整を細かく行って進めていた。それにより、組織的に活動することができた。</p> <p>○教師間の報告・連絡・相談を密にすることは、校務の円滑な実施の上で必要不可欠であり、今後もこれらを常に念頭に置いて、職務を遂行していく。分掌も複数人いるところは主任でなくても気づいた人が確認や行動をしていく。風通しの良い職場を目指す。</p>	
学習指導	3	各教科・領域等の指導で、学習への興味関心を高め、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させる。	B	<p>○各教科・領域において、教師一人ひとりが工夫をこらし、学習への興味・関心が高まり、基礎的・基本的な知識や技能が身につくように行った。学力の二極化が見られる教科もある。中間層から下にいる学習の遅れが出ている生徒への対応を考えていく必要もある。</p> <p>○3年間の指導計画を見通して基礎的・基本的事項の精選と知識・技能の習得を継続的に教科部会などで進めていく。</p> <p>○県・全国学テの分析をどのように授業の中へ反映させ、学力を伸ばしていくかの方策を教科部会で話し合い、試行・実践していく。朝読書の一部を小テストなどにして、基礎学力の定着を図る。</p>	<p>◎学習に遅れが出ている生徒への対応について、どのような指導を行っているのか具体的な対応策を教えてください。</p> <p>◎長期休業中の補習や放課後の補習について、組織的に取り組んでいることがわかりました。</p>

学習指導	4	各教科・領域等の指導では、生徒の思考力・判断力・表現力等をはぐくむ観点から、言語に関する能力を育成する上で必要な言語活動の充実を図る。	A	<ul style="list-style-type: none"> ○授業にアクティブラーニングを取り入れ、生徒が積極的に発言できるような機会を設けた。 ○各教科の指導では、昨年度に引き続いて生徒の思考力・判断力・表現力等を高めるための授業の展開を実践している。特に言語活動については、教科部会などで意図的に時間と場面を工夫して、充実が図れている。 ○言語活動については、教科部会などを通して、意図的に時間と場面を工夫し、さらなる教材研究による充実を目指す。 ○自分の考えをまとめ、発表する機会を日々の授業の中でも取り入れる。 ○教師が互いに授業を見る機会を作る。教科部会でさらに授業力向上の意見交換をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎どの仕事でも組織的に取り組むことが重要。教員が健康でやる気をもって意欲的に取り組めるよう、これからは教科部会を活用し、組織的に取り組んでください。 ◎学習に対して動きが出てきた。 ◎教科部会が活発に行われている様子がうかがえる。
	5	各教科・領域等の指導では、生徒が見通しをもって学習に取り組むとともに、学習内容を振り返る活動を計画的に取り入れるように工夫する。	B	<ul style="list-style-type: none"> ○各教科・領域において、生徒が見通しをもって活動できるように工夫して行っている。また、振り返りを記入させるカードや小テストなどを作成し、振り返る活動を時間内に取り入れている。生徒が自主的に計画できるようにする。 ○各教科でシラバスを作成し、活用したことで1年間の見通しをもたせることができた。1時間の中での見通しと振り返りを学校全体で共有する。 ○来年度の年間指導計画の作成や授業内容の精選、振り返るための自己評価カードの使用などは、教科部会などで検討して共通理解をもって実行していく。また、授業方法を検討し、授業見学を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎互いに授業を見合うことは、校内の自主研修に繋がっていく。教員の自主研修については、さらに取り組んでもらいたい。
生徒指導・教育相談	6	生徒指導上の諸課題に対して組織的に対応し、きめ細かく指導・支援を行う。	B	<ul style="list-style-type: none"> ○定期的な「生徒指導だより」発行により状況を知ることができた。 ○色々な場面で危機感をもって指導しなければならない場面が見られた。 ○きまりや問題行動への対応について、さらに、明確化し周知する。 ○教員間の共通認識ができるように、職員会議で時間をとり周知する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎教員間で共通認識ができるように、職員会議で時間をかけて周知することは、とても大事なことです。全職員が理解することは大切なことである。 ◎不登校については、担任だけでなくいろいろな人が関わることは大切なことである。ケース会議など、それができていることがよくわかった。
	7	生徒の「心」を育て、適切な判断力を培うことによって、安心して安全な行動がとれるようにする。	B	<ul style="list-style-type: none"> ○道徳、(校内)一斉道徳の取り組みが充実してきている。 ○道徳観を養う教育に学校全体で取り組んでいる。 ○SNSトラブル、判断力のなさが問題行動につながっている。 ○学校課題研究を通してねらいをきちんと把握した上で実践を図っていく。ねらいをもった取組を行い、それぞれの取組に「指示」「見届け」「評価」をして、改善していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎情報がオープンにした方がPTAも協力ができる。今はそれができている。また、小中で情報を共有していることがよくわかった。大切なことである。

健康教育	8	健康教育の指導の充実を図るため、年間指導計画（学校保健・食に関する指導）に基づいた指導を行う。	A	<p>○保健委員会による毎朝の健康観察や学校保健委員会への参加、薬物乱用防止教室などが機会を捉えて開催されており、生徒の健康に啓蒙を図るよい指導であるので継続していきたい。</p> <p>○学校保健委員会では保健委員の生徒も参加し、積極的に話し合い活動をしていた。保健集会で全校生に向けて発信し、関心を促した。</p> <p>○健康診断後の治療も手紙を渡すだけでなく、声かけもする。また、各クラスで誰が治療済、未治療かを担任も把握し、治療促進の活動を行う。</p>	<p>◎各階とも生徒用トイレのドアの破損がひどい。1学期のこの会でも指摘し、ドアの改修について業者が寸法等を計りに来たところまでは聞いたが、その後の進展が無いようだ。どうなっているのか、フィードバックしていただきたい。</p> <p>◎薬物乱用防止教室など機会を捉えて薬物の危険について指導を行っていることが分かった。高校では性感染症についても指導を行っているが、中学校でも教科の中でできていると聞き、安心した。</p>
	9	施設・設備の安全点検を常時実施し、事故を未然に防止するよう努める。	A	<p>○毎月の安全点検の実施や職員の校内の点検などで、危険箇所の発見や事故を未然に防止することができていたので、今後も実施したい。</p> <p>○窓やカギ等の破損が少なくない、予算の問題もあるが自力で治せないものもあるので対応してもらいたい。修繕は適切に行われている。</p>	
	10	危機管理マニュアル及び防災マニュアルの改善を図る。	B	<p>○危機管理マニュアル及び防災マニュアルの作成や改善は、学校の実態に応じてきちんと作成されている。</p> <p>○避難訓練時にマニュアルを読む機会があり、目を通す良いきっかけとなった。教員がマニュアルを確認する機会を、定期的、意図的に設ける。</p>	
学習環境	11	機能的、美的な掲示教育を進め、校内に活気と潤いをもたせる。特に、学級経営の核である教室掲示を重視する。	A	<p>○行事や季節に合わせたものが各学年、部活で掲示され、定期的に貼り替えられている。</p> <p>○掲示物の年間の計画を作り、学校、学年で統一することとなった掲示に関しては確実にを行う。</p> <p>○学校全体での統一感をはかるために、全教科を包括した掲示計画を設定する。</p> <p>○他クラスや他学年の掲示物を参考にする。</p>	◎項目12の「除草及び花壇等を整備し、花いっぱい美しい環境をつくる。」がなぜ自己評価で「B」なのか。あれだけきれいに取り組んでいる姿は外部から見てもよく分かる。「A」になってもいいのではないかな。
	12	除草及び花壇等を整備し、花いっぱい美しい環境をつくる。	B	<p>○正門から校舎までの通路や中庭の除草は計画的に実施され、学校花壇の整備もきめ細かく行われて、花いっぱい美しい環境づくりができていた。</p> <p>○花の水やりを各クラス持ち回りで行った。その時に、ボランティアで各クラス10人程度の生徒が協力していたので良くできていた。</p> <p>○除草、落ち葉掃き等は日々の掃除だけでは回らない。各部活に協力してもらい、時期を見ながらそれぞれの活動場所をきれいにしてもらおう。</p>	◎全校クリーン活動に子供たちはよく取り組んでおり、校舎の裏もきれいになっている。No.11の項目、掲示も含めて、学校内外はかなりきれいになってきている。先生方は自信をもって自己評価してもらいたい。
	13	清掃は全生徒・全職員で一斉に行い、学校美化を推進する。	B	○生徒の意識として清掃への取り組みには個人差があり、今後も環境委員会を中心に啓蒙を図る必要がある。職員も自ら学校の美化活動に積極的に取り組む姿勢があり、継続していきたい。	

学習指導			○生徒の多く及び教職員は清掃に取り組めているが、全ての生徒がしっかりと活動できているとはいえない。私語なし清掃は徹底されていないので要検討。	
教職員の資質向上	14	職員相互の尊敬・信頼・協力を高め、働き甲斐と張りのある明るい職場をつくる。	○職員相互の協力体制は、学年内及び教科内を中心に密に行われており、常に報告・連絡・相談が行われ、明るく働きやすい職場が作られている。 ○学年主任を中心にまとめ、クラスで起こった問題も、学年、管理職も含め対応でき、話しやすい雰囲気である。ただ、他学年とのつながりは乏しい面がある。 ○教職員実践目標を年度当初に全体で確認する。 ○職員相互の尊敬・信頼・協力を高め、明るい職場づくりを目指して、常に報告・連絡・相談がなされることなどは、今後も継続したい。	◎No.14「明るい職場を作る」に対して、「常に報告・連絡・相談が行われ、明るく働きやすい職場が作られている」のであれば、それだけで「A」ではないか。自分の評価については低くなってしまおうのか。 ◎教員間でお互いに言い合える雰囲気は大切である。お互いに遠慮している部分があるとすれば、それは正してもらいたい。 ◎子供への指導に関して、教員の発した言葉や態度で子供が傷つくことがないようにしてもらいたい。
	15	研修の機会や場を計画的に設定し、指導力の向上に努める。	○昨年度からの「自己肯定感を高める生き方指導」の研修は、これまでの言語活動の充実を踏まえて継続的に研修が進められている。また、学期に1回程度は教科部会が開かれ、部員間の連携が密にされており、協力体制が構築されている。 ○小・中連携会議は生徒が小学校でどのように生活し、指導を受けていたかを知ることができ、参考になった。自身の指導に生かすことができた。 ○中学校の教員が小学校の、小学校の教員が中学校の様子を見に行く機会を設ける。	
家庭・地域との連携	16	PTA及び学校応援団と調整しあい、連携を深め、計画的に活動する。	○役員の方が頻繁に学校へ来てくださり非常に協力的だと感じた。しかし、PTAや学校応援団がどの時期に何をしているのかを教員がわかっていないように感じる。 ○計画的に保護者・生徒との共同作業が行われており、それが目に見える形になっている。(緑化・クリーンなど) ○PTA及び学校応援団の活動には、教職員との連携を深めるためにもぜひ協力を進めていきたい。	◎子供たちは、あいさつがしっかりとできている。 ◎先生たちが登校時や下校時の指導で、よく交差点などに立っていてくれるので安心できる。

家庭・地域との連携	17	学校公開や家庭・地域との双方向の意見交換の場（紙面、会合＜保護者会・懇談会等＞）を設定し、より密な連携を実施する。	A	<p>○学校だより「槌音」、学年・学級便りで、学校の情報をとでもわかりやすく発行している。ホームページや桶中情報メールもこまめに発信されていた。</p> <p>○学校公開等で地域の方にも学校の様子を知ってもらえた。アンケートなどを通して保護者との連携を強化することが出来た。</p>	
特別活動（昨年度までの「その他」から変更）	18	生徒の自治的な活動を尊重し、自治的な活動による学校改善を図る。	B	<p>○環境委員主体のクリーン活動、落ち葉掃き、JRCの駅頭募金など、ボランティア生徒も多く、良くなっていた。</p> <p>○生活向上キャンペーンの実施により、生徒の学校生活への意識を高めることが出来た。期間以外でも継続させたい。</p>	◎子供たちは十人十色、いろいろな生徒に光が当たるような教育を、今後も続けてもらいたい。
	19	学級活動における生徒の自発的、自治的な活動を中心として、学級経営の充実を図る。	B	<p>○学級会、先輩に学ぶ会など様々な取り組みを行うことができた。</p> <p>○学活用グッズなども用意され、話し合い活動についても、基本的にできているが、活動する時間の確保が難しい。話し合い活動等を通して、生徒一人一人に役割を分担させ、自主的、実践的な態度の育成に努めることで、学級経営の充実を今後も図っていく。</p> <p>○学級会による話し合いは小学校で身につけた力の継続にもつながり、学級経営を充実する上でも有効である。学年ごとの時期や内容にばらつきがあるので、年間計画で決め、実施していく。4月に学級会のオリエンテーションを行い、話し合いの意義ややり方の確認をし、全学年で足並みを揃えて実践に移す。</p>	<p>◎先生たちはなぜ「B」をつけるのか。自分が出来たかどうかで評価をしているのか。「学校を評価」するはずが、誰を見て評価をしているのか。自己に対する評価が厳しいのではないか。学校として出来ているかどうかを評価していれば、もっと「A」が増えてもいいのではないか。</p> <p>◎以前よりも評価はプラスになっている。一生懸命にやっているのに、なぜ低く評価するのかわからない。今の桶川中学校の様子を見れば、もっと良い評価になってもいいと思う。</p>

*評価基準について

- ・ A 4点、B 3点、C 2点、D 1点で集計し、

平均 3.4 以上は A、2.5 以上 3.4 未満は B、2.0 以上 2.5 未満は C、2.0 未満は D とする。

今年度からこの基準で統一する。